

より良く生きる — 出居清太郎先生の世界 — 第9回

山本博也

「二つで一つ」の理

人は空気の中に生かされている。空気を呼吸して生きている。空気と命とは別々のものではない。二つで一つである。水と魚、土と野菜——万物の命は全て二つが一つとなって現れている。これが天地自然の法則である。恩人と仇とは裏と表である。二つであって一つである。難が有って有難い、これもまた表裏の関係にある。二つで一つである。

見事に差し上げて、上手にいただく

息は吐く息と吸う息と二つで一つである。この理が我々の生活の中にも常にいかされなければ、行き詰まり（息詰まり）となる。

人様に差し上げるのは好きだがいただくのはきらいだ、話しをするのは得意だが聞くのはにがてだ、世話をするのはいいがされるのはいやだ——というのでは、吐く息ばかり、あるいは吸う息ばかりであって、これでは必ず行き詰まる。見事に差し上げて、そうして上手にいただく。これが正しい交流である。

（出居清太郎先生の言葉から）

今年の2月に開催された北京オリンピックで、カーリング女子が銀メダルに輝きました。その日本代表チームは「ロコ・ソラーレ」。北海道の北辺、オホーツク海に面した北見市常呂町にあるチームです。

このチームは4年前には銅メダルを取りました。その時選手の一人は言ったそうです。「正直、この町は何もない。小さい時はこの町では夢はかなわないと思っていた。でも今は、ここにいなかったらかなわなかったと思う」と。

その思いを今年さらさらに強めたことでしょう。小さな町だからこそ、町を挙げて応援してもらえる。また、それを力にできる、この町で生活するメンバーだからこそその団結力。

「夢のかなわな
い町」と「この
町だからこそ夢
がかなう町」、
裏と表、一つの
ものの、正反対
ともいえる二つ
の側面と言えます。

「難」も「有難いこと」になる可能性がある、
「仇（かたき）」も「恩人」と思える時がくるかもしれないと思えば、
希望が持てて、元気がでます。（前回本稿参照）

考えてみれば世の中にはいろんな「二つで一つ」があるように思います。

呼吸は、吸う息と吐く息とで成り立つ



カット 大西 恵

のであって、片方だけでは窒息してしま
います。売り手と買い手があつて商売が
成り立ちます。自分の利益だけを追求し
ていてはいずれ破綻します。一方で、後
輩に「たまには奢（おご）らせてくださ
い」と言われれば、「有難う」と素直に受
けることもあつていいのではないでし
ょうか。親指がいくら強くても、親指だ
けでは紙一枚持てません。もう1本の指
を借りてはじめて物が持てます。

何にせよ、ひとつだけ、一面的な見方、
やり方に固執しないこと、常に「もう一
つ」を想定していくことが大事であるよ
うに思われます。

一方だけにとらわれない、「二つ・一つ」
の世界観

この世はすべて「二つであつて一つ」
である。この「二つ一つ」の世界観を持
つてもらいたい。人々はとかく一つ、一
方だけにとらわれて判断し、もう一つを
忘れ、置き去りにしている。そこに破綻
があり、不幸がある。

（出居清太郎先生の言葉から）

今から77年前の昭和20年6月、太平
洋戦争の末期、沖縄の守備隊が最後をむ
かえました。軍司令官は、自決する前に
政府に向けて打った電報の中で、「県民
ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ 賜ランコ
トヲ」と記しました。当時の沖縄の皆さ
んのご苦難の様が思い知られます。

現在進行形のウクライナの人たちの
悲惨な姿がダブります。

先日、ラジオから流れてきた、リスナ

ーの投書に私は耳をそばだてました。

ー「私の住んでいる宮城地方は先日、震度6の地震に見舞われました。新幹線が脱線し、停電、断水になりました。すると、ロシア軍に侵攻されて大へんな状況にあるウクライナにいる、剣道の仲間であるウクライナ人の友人から、地震のお見舞いのメールが届きました……」

なんとということでしょう！ 自分が生死にかかわる状況にありながら、異国の友人のことを気遣ってくれるとは。ここに人間の尊厳を見る思いがします。光明と希望を感じます。

あり、平和の中に戦いがある」ともおっしゃいました。

「戦争」と「平和」、正反対の二つのようですが、先ほどのウクライナの人は、戦争の中にあっても平和の心をもつことが可能であることを示してくれています。逆に、平和な日本で、なんと多くのいがみ合いがあることでしょう。

つまり、ものごとは二つで一つ、真逆のことも起こり得ます。心を強く持てば喜びが生まれ、油断すれば転びます。

「難」にあつて、固い、冷たい心であれば絶望しかありません。「難」にあつても、広い、あたたかい心には希望の火がともります。

出居清太郎先生は「戦いの中に平和が

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 TEL 03-3971-1493